

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」



【西牟婁振興局】重点プロジェクト

【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】～バリカン処理の実演～

## 令和7年4月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)



掲載 HPへ

## は じ め に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

|                                                                     | 頁数         |
|---------------------------------------------------------------------|------------|
| <b>I 海草振興局</b>                                                      | <b>1</b>   |
| 1. 和歌地方各農業者団体が総会を開催                                                 |            |
| <b>II 那賀振興局</b>                                                     | <b>2</b>   |
| 1. クビアカツヤカミキリ対策会議及び園地巡回調査を実施                                        |            |
| <b>III 伊都振興局</b>                                                    | <b>3</b>   |
| 1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】<br>～農業技術講習会果樹コース（かきの摘蕾等講習会）の開催～      |            |
| 2. 令和7年度伊都地方農業士連絡協議会総会、研修会の開催                                       |            |
| <b>IV 有田振興局</b>                                                     | <b>4-5</b> |
| 1. 令和7年度有田地方農業士協議会総会・研修会の開催                                         |            |
| 2. 令和7年度第1回有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催                             |            |
| 3. うめ「南高」の摘心処理講習会を開催                                                |            |
| 4. 令和7年度有田地方4Hクラブ連絡協議会総代会及び技術交換大会を開催                                |            |
| <b>V 日高振興局</b>                                                      | <b>6-7</b> |
| 1. 日高地方農業士会令和7年度総代会を開催                                              |            |
| 2. 日高果樹技術者協議会が令和7年産うめ着果状況調査を実施                                      |            |
| 3. 令和7年度日高地方4Hクラブ連絡協議会総会を開催                                         |            |
| 4. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】<br>～うめ「南高」の低樹高化技術による省力化現地研修～         |            |
| <b>VI 西牟婁振興局</b>                                                    | <b>8-9</b> |
| 1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】<br>～電動バリカンによる摘心講習会を開催～ |            |
| 2. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催                                          |            |
| 3. 西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会総会を開催                                          |            |
| 4. 「川添茶」一番茶の収穫がスタート                                                 |            |
| <b>VII 東牟婁振興局</b>                                                   | <b>10</b>  |
| 1. 東牟婁地方農業士会が総会を開催                                                  |            |
| 2. 田植え体験の開催                                                         |            |

1. 令和7年度入学式 15名の学生生活がスタート
2. 1年生が県内の試験研究機関等で研修

# I 海草振興局

## 1. 和海地方各農業者団体が総会を開催

和海地方では、4月3日に紀美野町農業士会（会長：西浦充生氏、会員7名出席）、9日に下津農業士会（会長：馬場伸之氏、会員14名出席）、17日に和海地方4Hクラブ連絡協議会（会長：舩橋遼司氏、クラブ員11名出席）、18日に和海地方農業士会（会長：藪利昭氏、会員27名出席）、24日に生石加工グループ（会長：大西順美氏、会員8名出席）、30日に青年農業経営者協議会（会長：山本達弥氏、会員4名出席）がそれぞれ総会を開催し、いずれも令和6年度の活動報告、会計報告、新年度の活動計画などを審議し、議案はすべて可決された。

下津農業士会では総会後に元湯浅町指導農業士の林重敏氏から『「あおさん」と「田村みかん」のブランド化』と題して研修会が行われた。1月中旬以降に収穫する「あおさん」は貯蔵産地の下津でブランド力アップに貢献できると考えられ、田村の取組も踏まえてより発展につながればとの期待が語られた。また、林氏から貯蔵した「あおさん」果実が試食に提供された。試食果実は浮き皮がなく早生みかんの風合いで鮮度が保たれ、食感も早生みかんそのものであり、会員らは舌鼓を打った。みかん収穫が終わった時期に成熟するため、ヒヨドリなどの害が懸念されるが、下津でも現地実証を行いながら鳥害対策の可能性を探っていくこととしている。



下津農業士会



和海地方4Hクラブ連絡協議会



和海地方農業士会



生石加工グループ

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. クビアカツヤカミキリ対策会議及び園地巡回調査を実施

4月11日、那賀病虫害防除対策協議会（会長：中島康晴氏、管内各関係機関で構成）はクビアカツヤカミキリの対策会議を開催し、巡回調査の対象地域の選定と防除対策について協議した。

22～23日は、今回選定した紀の川市桃山町及び貴志川町と岩出市の489園地を延べ47名が10班体制で調査し、8園地で16本の被害が確認された。すでに被害を受けた園での発生が主であったが、被害発生園に隣接する1園地で新たに被害を確認した。今回調査した地域において、クビアカツヤカミキリの被害樹は増加傾向にあったが、夏期の一斉防除や早期発見・早期捕殺の効果により、想定よりも被害は拡大していなかった。

今後は、被害の確認されていない園地で、産卵防止に効果があるとされるネット被覆のモデル園を設置する予定である。



那賀病虫害防除対策協議会推進委員会



調査事項について確認する職員たち



被害の痕跡を確認する様子



調査中の振興局職員

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】

##### ～農業技術講習会果樹コース（かきの摘蕾等講習会）の開催～

4月21日、農業水産振興課では、就農意欲があり基礎技術を習得したい人への技術・経営力向上のため、果樹（かき）の栽培技術講習会を開催し、7名が受講した。

今回は、初夏の開花期までの主な作業であるかきの摘蕾等についての講習会を実施した。

はじめに、振興局内会議室で当課の浅井普及指導員から、かき栽培の基礎について説明し、続いて津田普及指導員からかきの歴史、結果習性、摘蕾の方法について説明した。

その後、九度山町入郷の藤田普及協力委員のかき園に移動し、摘蕾の実演を行いながら説明した後、受講者全員で「刀根早生」の摘蕾を行った。受講者からは、残す蕾の選び方、新梢が多く発生している箇所のかきの方法や病虫害の防除についての質問があった。



摘蕾方法の説明

#### 2. 令和7年度伊都地方農業士連絡協議会総会、研修会の開催

4月16日、伊都振興局3階大会議室において、伊都地方農業士連絡協議会総会（会長：辻 重光氏）及び研修会を開催した。会長及び来賓挨拶に続き、令和6年度退任された指導農業士および新規認定者の紹介を行った。総会では会員15名の出席があり、全ての議案が原案どおり可決、承認された。

研修会では、近年問題となっている柿の軟化対策として選果場で導入されているスマートフレッシュ（1-MCP）の効能について、かき・もも研究所の岡橋副主査研究員から説明があった。

市場からは極早生柿に対するスマートフレッシュ処理は必須であると言われているため、出席した農業士からは活発な質問や試験要望が挙がっていた。

当課では、今後も関係機関と連携し、農業士会活動の支援を行っていく。



社長のあいさつ



岡橋副主査研究員からの講演

## Ⅳ 有田振興局

### 1. 令和7年度有田地方農業士協議会総会・研修会の開催

4月16日、有田地方農業士協議会（会長：武内啓和氏）が鮎茶屋において総会及び研修会を開催した。当日は各市町の農業士と関係者の計46名が出席し、令和6年度事業経過報告と収支決算報告、令和7年度事業計画案と収支予算案、役員改選案が原案どおり承認され、新会長に上野山和広氏が選任された。

研修会では、農研機構果樹茶業研究部門カンキツ研究領域研究領域長塩谷 浩氏から「カンキツにおけるスマート農業技術の開発と展望」についてご講演いただいた。また、株式会社早和果樹園代表取締役会長秋竹新吾氏から「早和果樹園の取り組みと地域振興」と題してご講演いただいた。出席者らは熱心に聞き入り、講演後や研修会終了後も質問が絶えなかった。



塩谷氏による講演

### 2. 令和7年度第1回有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催

4月21日、果樹試験場において有田管内で5年以内に就農した農業者と女性農業者を対象とした合同研修会を開催し、22名が参加した。第1部と第2部ではそれぞれかんきつの日焼け果対策と鳥獣害対策について研究員2名から講義があった。第3部ではかんきつの苗木の植え付けと管理方法について、中谷栽培部長指導のもとで受講者が実際に苗木を植え付け、管理方法の実習を受けた。

受講者らは4班に分かれ、「田口早生」2年生の苗木を果樹試験場圃場に植え付け、整枝や芽の整理を行った。植え付けの穴の深さや盛り土の仕方、かん水、整枝、芽の整理などの1つ1つの作業について、受講者同士で意見を交わしながら賑やかに作業を進めていた。

受講者からは「講師の実演により、重要なポイントや他の受講生とのやり方の違いを知り、自分の考えの間違いにも気づき、大変勉強になった」との感想が聞かれた。



中谷栽培部長による植え付けの実演



班に分かれての整枝、芽の整理作業

### 3. うめ「南高」の摘心処理講習会を開催

4月18日、JAわかやまありだ地域本部ウメ部会（会長：安井伸夫氏）が農業水産振興課と果樹試験場うめ研究所協力の下、有田川町中井原のうめ園で新梢の摘心処理の講習会を開催し、会員及びJAわかやま営農指導員25名が出席した。

摘心処理は4～5月に2回、約20cmに伸長した新梢を10cm程度残して摘心する作業であり、結果枝の増加が図られ増収効果が期待できる。また、徒長枝の発生が抑制されるため、冬季のせん定作業が省力できる技術でもある。うめ研究所の城村主任研究員を講師に迎え、処理5年目の樹を対象に、電動バリカンを用いた摘心の実演を行った。

令和7年産のうめも県下で着果数が少なく、本処理園も例年よりやや少ないが、摘心の効果もあり慣行樹より着果数は多い状況である。ウメ部会員の中にはすでに電動バリカンを購入し摘心処理を実践する部会員があり、また電動バリカンの購入を検討している部会員もいることから、地域に技術が浸透しつつある。



電動バリカンを用いた摘心の実演

### 4. 令和7年度有田地方4Hクラブ連絡協議会総代会及び技術交換大会を開催

4月23日、有田振興局において令和7年度有田地方4Hクラブ連絡協議会総代会が開催され、各市町から4Hクラブ員12名が出席した。

当日の総代会において、令和6年度事業経過報告と収支決算報告、令和7年度事業計画（案）と収支予算（案）が原案どおり承認されるとともに、役員改選が行われ、新会長に有田市4Hクラブの辻本真希氏が就任した。

総代会終了後に開催された技術交換大会では、クラブ員が農業分野から出題されたペーパーテストと実物鑑定に挑戦し、日頃の活動で身につけた知識を競い合った。

採点の結果、団体の部では有田川町4Hクラブ、個人の部では南広4Hクラブの鉢内康太氏が1位に輝いた。



総代会の様子



技術交換大会で実物鑑定に取り組むクラブ員

## V 日高振興局

### 1. 日高地方農業士会令和7年度総代会を開催

4月15日、日高地方農業士会（会長：清水俊夫氏）は令和7年度総代会を開催し、会員32名の出席があった。

議事に入る前に、令和6年度新規認定農業士の紹介を行った。

総代会では、役員改選が行われ、新会長にみなべ町の指導農業士 月向雅彦氏が選ばれるなど、新たな役員、理事が選出された。

総代会終了後、話題提供として農業水産振興課の各担当から「野菜花き産地強化事業」や「経営継承応援資金」などの県単事業、クビアカツヤカミキリ防除対策について説明を行った。

出席者からは、補助対象経費や申請期限など、補助事業の活用に向けた質問があった。



総代会の様子



新役員の挨拶

### 2. 日高果樹技術者協議会が令和7年産うめ着果状況調査を実施

農業水産振興課、JAわかやま紀州地域本部等で構成する日高果樹技術者協議会（会長：柏木雄人氏）は4月21日、22日、24日に令和7年産のうめ着果状況調査を実施した。

管内うめ園116カ所を対象として、関係者のべ34名が100節当たり着果数及び果実の肥大状況を調査した結果、主産地（みなべ町・印南町）の100節当たり着果数が4.6果で、過去10年平均比67%と少ない傾向であった。

主産地の果実肥大（果実の長径）は20.3mmで、過去10年平均比90%、1果平均重は5.8gで、過去10年平均比79%であった。

なお、4月6日から15日にかけての降雹により、うめ果実に被害が発生していることから関係機関と情報を共有しながら今後の動向を注視していく。



着果調査（4月22日 みなべ町）

### 3. 令和7年度日高地方4Hクラブ連絡協議会総会を開催

4月23日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：大野寿也氏）が、令和7年度総会を開催したところ、会員17名の出席があった。

議案審議では、令和6年度事業経過報告、収支決算報告及び令和7年度事業計画（案）、収支予算（案）ともに原案のとおり承認された。また、新会長に御坊市4Hクラブ連絡協議会の鈴木溪氏、副会長に印南町4Hクラブの夏見亮佑氏、会計にはみなべ梅郷クラブの大前尋氏が選出されるなど、役員改選が行われた。

総会終了後には、振興局職員が各種補助事業及びクビアカツヤカミキリ防除対策について説明した。



クラブ員による綱領唱和



新役員あいさつ

### 4. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】

#### ～うめ「南高」の低樹高化技術による省力化現地研修～

農業水産振興課では、うめ研究所、JAわかやま紀州地域本部等と連携し、うめ「南高」の低樹高化技術（カットバック処理）による青梅の生産性向上に取り組んでいる。

4月30日にうめ生産者を対象とした摘心処理（1次）の現地研修会を日高川町の1園地で開催し、7名の参加があった。

綱木普及指導員から、参加したうめ生産者に対して充電式電動バリカンによる摘心処理の方法を実演指導した。実際に摘心処理を行っている参加者からは「着果量が従来よりも増加した」、「せん定後の後片付けが楽になる」といった意見が聞かれた。

今後は、摘心処理（2次）講習会を5月下旬に、せん定講習会を11月下旬頃に開催する予定である。



摘心講習会（4月30日 日高川町）

## VI 西牟婁振興局

### 1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】～電動バリカンによる摘心講習会を開催～

「南高」の着果安定及び作業省力化を目的に、4月21日田辺市新庄町、25日上富田町岡、29日田辺市上芳養にて摘心処理講習会を開催した。生産者58名とJAわかやま営農指導員4名、普及指導員4名が参加した。

講習会では竹中普及指導員より充電式電動バリカンを用いて省力的に摘心処理を行えることを紹介・実演した。電動バリカンでの処理の留意点として、水平気味に一振りです効率よく摘心処理ができるよう、亜主枝等の背面には立枝を少なくすることをポイントとして伝えた。参加者からは「作業が1本あたり10分以内で終わり、秋のせん定が楽になるので導入したい」との感想があった。

今後は、秋季のせん定作業の更なる省力化を目指し、収穫後の夏季摘心処理の導入を推進していく。



バリカン処理の実演の様子

### 2. 西牟婁地方農業士連絡協議会が総会・研修会を開催

4月16日、西牟婁地方農業士連絡協議会（会長：家高 勇氏）は、県情報交流センタービッグ・ユーにおいて、会員及び行政関係者等約50名が出席し、総会並びに研修会を開催した。

本年度は役員改選により、泉 孝志氏が会長に就任し、会員141名の新体制がスタートした。

研修会は、地域農業士の松場裕香氏から、令和6年度の女性部会による消費拡大推進活動に関する報告を行った。また一般財団法人雑賀技術研究所の山下貴文氏より、みかん外観選別機についての講演及び実演があった。

会員からは、「細かい傷はどの程度まで選別できるのか」や「水腐れ果も識別可能か」、「うめの選別はできないか」等の質問があり、熱心に聞き入っていた。



会長挨拶の様子



みかん外観選別機の実演の様子

### 3. 西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会総会を開催

4月24日、西牟婁総合庁舎にて、西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会総会（会長：森川敏子氏）を開催した。役員と会員合わせて9名が出席し、令和6年度活動報告及び収支決算報告、令和7年度活動計画案及び収支予算案の全ての議案が原案通り可決、承認された。

その後、今年度の活動に関して、和歌山県生活研究グループ連絡協議会総会の出席者を決定したほか、SUN・燦紀南農業者の集い及び田辺農林水産業まっりの状況について、出席者同士で情報交換した。

田辺農林水産業まっりについては、郡での出店は例年行っていないが、市町単位で出店している。会員が高齢期を迎え運営が困難になってきていることや、食品営業類似行為の取り決めが厳しいこと、またそのような状況の中でどのように工夫して加工品等を販売しているかについて意見交換された。会員からは「お寿司に落花生を入れるのは初めて聞いた」、「おいしそう」との意見があった。



森川会長より挨拶

### 4. 「川添茶」一番茶の収穫がスタート

4月25日より、白浜町市鹿野地区で「川添茶」一番茶の収穫が始まった。

現在、生産農家は6戸で、「やぶきた」を中心に4ha栽培している。生産農家の減少と高齢化により茶園の維持が困難なため川添緑茶研究会（会長：上村 誠氏）を立ち上げ、生産者が一体となって栽培・加工・販売を実施している。

今年は3月に冷え込みが厳しかった影響などで、収穫開始は過去10年間の平均より3日遅くなった。生葉収穫量は平年並みの10tが見込まれており、5月上旬まで収穫される。

収穫された一番茶はその日中に地区内にある製茶工場で加工された後、8割が静岡県の茶市場へ出荷される。残りの2割は5月中旬頃から田辺市内の茶専門店や一部のスーパーマーケットなどで販売される。

生産者らは「今年も上等の出来に仕上がっている。」「静岡の名産品とも引けをとらない一級品の味わい」と話していた。



摘採機で一番茶を収穫

## VII 東牟婁振興局

### 1. 東牟婁地方農業士会が総会を開催

4月17日、東牟婁地方農業士会（会長：杉浦 仁氏）は休暇村南紀勝浦において、会員及び農業水産振興課14名が出席のもと、総会を開催した。

杉浦会長の挨拶と当部の伊藤副部長の祝辞の後、令和6年度の活動報告、会計報告、新年度の活動計画、役員改選などの議案が上がり、全て可決され、新会長に松本安弘氏が就任した。

当課の橘普及指導員から、「農業機械安全」、「収入保険」について、高垣技師から「農業版BCP」について話題提供した。



杉浦会長の挨拶

### 2. 田植え体験の開催

4月24日、M Y N S 営農組合（代表：下阪殖保氏）、J A わかやま及び農業水産振興課は、近畿大学附属新宮中学校1年生（36人）を対象に新宮市熊野川町の水田（10a）で田植え体験を開催した。この田植え体験は、生徒達に水稻の作り方や米食に関心を持ち、その重要性を伝えること目的とし、平成29年から実施している。

代表挨拶の後、当課普及職員が和歌山県の農業や田植えまでの準備について説明を行った。続いてJ A 職員やM Y N S 営農組合員らが苗の植え方を指導した。生徒全員が横一列に並び1人3条程度を植えた。

生徒らは、おそろおそろ水田に入っていたが、最後には楽しみながら田植えをおこない、農業や食物に関心を持てたことができた。

8月下旬ごろに収穫体験を行い、収穫した米は近畿大学附属新宮中学校の文化祭で販売される予定である。



体験の様子

## Ⅷ 農林大学校

### 1. 令和7年度入学生15名の学生生活がスタート

4月8日に入学式を行い、園芸学科14名、アグリビジネス学科1名の計15名が入学した。式辞で山本校長は「これから2年間、本校での様々な学びや学生生活を通じて、農業に関する専門知識や技術だけでなく社会人として求められる能力を身につけ、本県農業を担うリーダーに成長してほしい」と新入生を激励した。

続いて、新入生代表の飛田統羽さんが「農業の基礎知識や技術、経営能力の習得やさまざまな資格取得に努力したい。学んだ知識や技術を実践し、物事を的確に判断・対応する力や体力、将来への自信をつけたい」と宣誓した。

今後、学生は農業に関する専門的な講義や実習、先進農家や試験場などで研修を行い、農家の技術や先端技術について学習を行っていく。



山本校長の式辞



新入生代表の宣誓

### 2. 1年生が県内の試験研究機関等で研修

4月15日から16日にかけて、1年生（15名）が農林業に関する最新の研究内容や事業内容について学ぶため、農林業関係の試験研究機関等（果樹試験場かき・もも研究所、農業試験場、林業試験場、農林大学校林業研修部、果樹試験場うめ研究所、農業試験場暖地園芸センター、農林大学校就農支援センター、果樹試験場）と中田食品株式会社を訪問した。

研修先では、現在取り組んでいる研究内容や事業内容等について説明を受け、その後、ほ場や施設の見学を行った。ほ場見学では梅の摘心栽培や環境制御ハウスに興味を持つ学生が多く、各所で写真を撮影していた。

入学して間もないが、最新技術に関する学習だけでなく、2日間寝食を共に過ごすことで、学生同士の親睦や連帯感が深まり、有意義な研修旅行となった。



ほ場の見学（かき・もも研究所）



栽培ほ場の見学（うめ研究所）

### 普及活動現地情報 発行・編集

|                      |                 |                 |
|----------------------|-----------------|-----------------|
| 和歌山県農林水産部経営支援課       | TEL073-441-2931 | FAX073-424-0470 |
| 海草振興局農林水産振興部農業水産振興課  | TEL073-441-3377 | FAX073-441-3476 |
| 那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課  | TEL0736-61-0025 | FAX0736-61-1514 |
| 伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課  | TEL0736-33-4930 | FAX0736-33-4919 |
| 有田振興局農林水産振興部農業水産振興課  | TEL0737-64-1273 | FAX0736-64-1217 |
| 日高振興局農林水産振興部農業水産振興課  | TEL0738-24-2930 | FAX0738-24-2901 |
| 西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0739-26-7941 | FAX0739-26-7945 |
| 東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0735-21-9632 | FAX0735-21-9642 |
| 和歌山県農林大学校            | TEL0736-22-2203 | FAX0736-22-7402 |
| 和歌山県農林大学校就農支援センター    | TEL0738-23-3488 | FAX0738-23-3489 |